

第1回X会議 議事要旨（速報）

1 視察

- (1)日 時 令和6年7月22日(月) 14時～15時20分
- (2)場 所 ①桃園公園(八幡東区桃園三丁目)
②子育てふれあい交流プラザ 元気のもり(小倉北区浅野三丁目)
- (3)出席者 北九州市長 武内和久、副市長 江口哲郎 片山憲一 大庭千賀子、
顧問 上山信一 山本遼太郎(官民連携ディレクター) ほか

(4)概 要

- 武内市長、上山顧問等が、桃園公園及び子育てふれあい交流プラザの視察を行った。
- 視察先では、「ユーザー目線」を踏まえた指摘を担当局に伝えたほか、来場者等へのヒアリングを行った。主な指摘内容等は以下のとおり。
- ・桃園公園において、地域の方へのヒアリングで、「トイレが古く、暗い印象で使いづらい」「雨をしのげる場所がない」「ベンチが老朽化している」等の声があった。
 - ・元気のもりにおいて、来場者へのヒアリングで、「スタッフの見守りが安心」「清潔感があって良い」等の声があり、運営側からは「子育て相談窓口もあることをもっと知ってもらいたい」等の声があった。

2 会議

- (1)日 時 令和6年7月22日(月) 15時30分～17時30分
- (2)場 所 西日本総合展示場 新館303会議室(小倉北区浅野三丁目)
- (3)出席者 北九州市長 武内和久、副市長 江口哲郎 片山憲一 大庭千賀子、
顧問 上山信一 山本遼太郎(官民連携ディレクター) ほか

(4)概 要

ア 事例紹介

- 「新潟市における公共施設の子ども対応」の取組みについて紹介があった。
- 質疑応答では、「市民へのインタビューの実施にどんな課題があったか」「ユーザー目線でチェックを行っていく上で大切にすることはなにか」等の質問があり、「特に若手や現場の職員が意見を出して取り組んだ」「現場でのインタビューでは、既存アンケートでは把握することができない意見を掘り起こすことができる」等の助言があった。

イ 討議

- 本日の視察と新潟市の事例紹介を踏まえ、「ユーザー目線」の重要性や「ユーザー目線」を踏まえた改革の進め方等について討議を行い、「行財政改革や財政再建だけでなく、ソフト施策で時代に合わせた市民サービスに進化させていくことが必要」「自らが考え、自ら改善することができるよう、職員の能力を高めていくことが重要」等の発言があった。

○いのちのたび博物館における親子目線を踏まえた施設運営の取組みについて紹介があり、意見交換では「職員が親子連れの方々と直接対話してヒントを得て欲しい」「できないことであっても、課題を見える化することが大切」等の発言があった。

ウ 報告

○現在行っている経営分析のうち、ユーザー目線の代表的な視点である「親子目線」との関連が深い4つのクラスターについて経過報告があった。

(ア)「保育所・幼稚園」「子育て支援事業」「青少年関連事業」

○少子化の概況や保育所の入所状況、局の予算や施設の老朽化等の現状

- ・市民の声を踏まえた現行業務の改善の取組み
- ・今後の課題の整理や課題解決に向けた仮説

等について報告があり、今後、分析の深掘りを行っていくこととした。

○報告後の討議で、「市民の意見を常に聞く姿勢が必要だと感じた。A レベルの課題はスピーディーに対応し、B・C レベルの課題は理想形を考えた上で現実の対応策を練るべき」「C レベルの課題は多面的に考える必要があり、局単位にとどまらない市全体の体制を検討する必要」「市役所だけで対応できない課題には民間企業や NPO との協力も考える必要」等の発言があった。

(イ)「公園事業」

○北九州市の公園づくりの体系や都市公園の整備状況等の現状

- ・誰もが使いやすい公園づくりのあり方等の公園事業の課題と今後の取組み
- 等について報告があった。

○報告後の討議で、「議論がハード施策中心になっている」「ソフト施策の改善のためには、外郭団体の活用や区役所への分権も検討が必要」等の発言があった。

エ まとめ

○「若手や現場の職員の声が必要」「老朽化対策など、局をまたいで検討が必要な課題は、X 会議で議論していく必要がある」等の発言があった。

○最後に本部長(市長)より「役所だから仕方ないと諦めることを諦めよう」、ソフトでのクイックウィン・アーリーサクセスが重要で「ハード思考に頼りすぎない」、サイレントマジョリティーの声を聴くチャンネルを持ち「つくり手目線から脱していく」、この3つを心掛けて欲しい」との講評があった。

3 問い合わせ先 市政変革推進室
電話番号 093-582-3170